2019年3月20日　第537号（隔月発行）

アジアの友

The Asia-no Tomo

2-3
FEBRUARY-MARCH
2019

「平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果」より
2018年の外国人留学生受入れ動向は？

インド・ムンバイ AAAWIの25周年記念式典に参加して

ABK草津万座温泉 スキーツアー報告

ABK 日本語コース
2018 年度卒業式を開催

2 月 28 日（木）文京区立駒込地域活動センターにてアジア学生文化協会日本語コースの卒業式が行われました。卒業生 151 名は日本語学校での様々な思い出を胸に大学や専門学校など、それぞれの進路に巣立って行きました。

アジアの友

2019 年 2 月-3 月号 第537号

目　次

巻 頭
2 「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果」より
2018 年の外国人留学生受入れ動向は？

ご報告①
12 「インド・ムンバイ AAAWI の 25 周年記念式典に参加して」
布施知子（ABK 常務理事）

ご報告②
20 ABK 草津万座温泉スキーツアー

私の意見私の体験
27 「大切なのは夢を持ち続けること」
クリスチアン ダヴィド ペニャ マルチネス（クリス）～コロンビア

コラム 泰日工業大学奮闘記
32 ㉛「進路 ～学生が望む就職とは」 水谷光一

ご報告③
34 新星学寮建替え募金（2019 年 2 月 28 日現在）

35 知友会通信

36 MEMBERS

＜表紙＞*インド門（ムンバイ）Gateway of India　…イギリス領インド帝国の時代にインドのムンバイ（旧ボンベイ）に建てられた記念建造物 。高さ 26m。 ジョージ 5 世とメアリー王妃が 1911 年に訪れたとき、アポロ・バンダルに上陸したことを記念して建立された。*

「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果」より
2018 年の外国人留学生受入れ動向は？

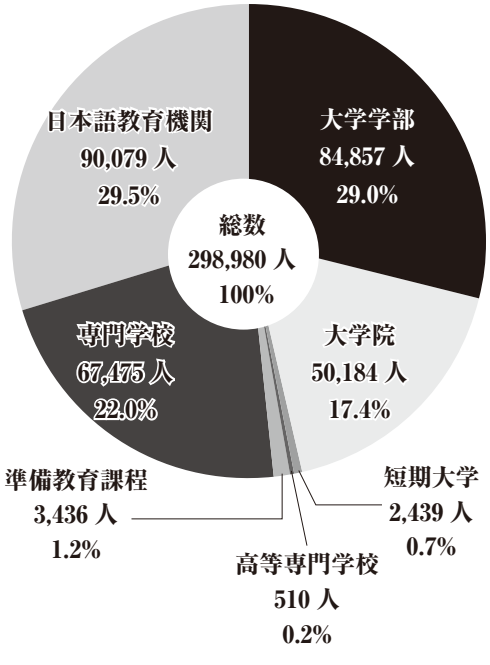
独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が調査した平成 30 年（2018 年）度の外国人留学生在籍状況調査結果（5 月 1 日時点の数字）によると、日本で学ぶ留学生数は前年（2017 年）比 3 万 1 千 938 人増で、29 万 8 千 980 人となり、過去最高数を更新した。内訳は大学や専修学校専門課程（専門学校）など高等教育機関在籍者数が 20 万 8 千 901 人で前年比 2 万 517 人増、日本語教育機関在籍者数が 9 万 79 人で同 1 万 1 千 421 人増だった。

高等教育機関在籍者数では、大学学部が 8 万 4 千 857 人、専門学校が 6 万 7 千 475 人、大学院が 5 万 184 人と続いている。

大学学部・大学院に短期大学を合わせた大学在籍者数は 13 万 7 千 480 人で、前年比 1 万 1 千 646 人増。2014 年以降、それまで長く続いていた停滞傾向から上昇傾向に転じている。

政府が 2008 年に掲げた「留学生 30 万人」という目標は、数字上はほぼ達成された。ただし、新たな就労資格創設の影響や資格外活動（労働）時間の大幅超過問題、学生の失踪問題によるビザの厳格化など、現在の増加傾向が続くのかは不透明だ。

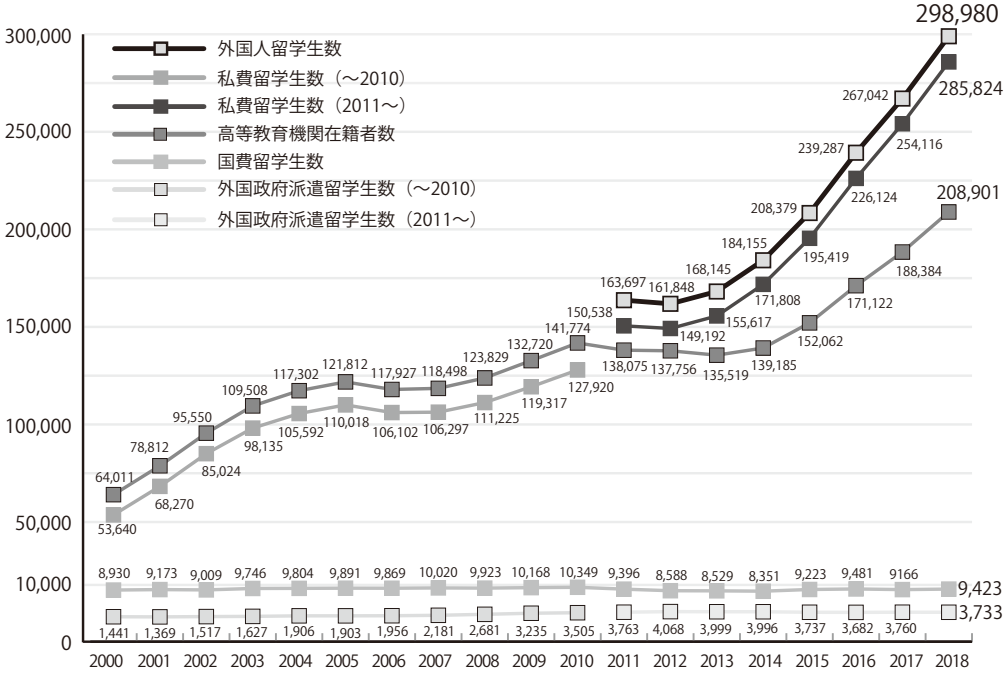
▶ **所属学習機関別留学生数**（2018 年 5 月 1 日現在）



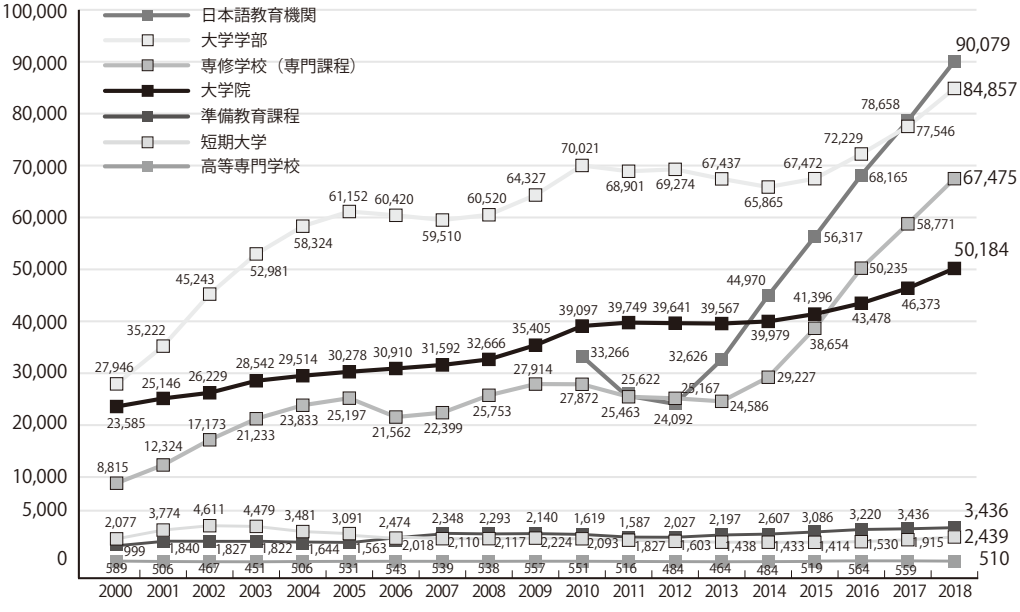
ここ数年、少子高齢化社会における労働力としての注目度が高まっている留学生だが、学びながら働くこと、就職後長く日本で生活をしていくことには様々な困難も伴う。彼らが健全に学び、安心して日本で生活して行けるよう、官民一体となった分かりやすいサポート体制を早期に構築して行く必要があるだろう。

※高等教育機関とは、初等中等教育の次段階の教育課程である高等教育を提供する教育機関の総称。大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程（専門学校）等
※表、グラフは一 JASSO の外国人留学生在籍状況調査結果より作成

▶ 留学生数の推移　（各年５月１日現在）



▶ 所属学習機関別による留学生数の推移　（各年５月１日現在）



＊「出入国管理及び難民認定法」の改正により、2011 年より日本語教育機関在籍者が留学生として外国人留学生数に加えられた。

ブータン、ウズベキスタンが高い増加率

増加率が高いのは、ブータン（636.1％増）、ウズベキスタン（103.6% 増）、バングラデシュ（32.5% 増）、フィリピン（32.3% 増）など。ブータンは 2017 年にブータン政府が日本留学を支援する貸付金プログラムを開始したことで、日本語教育機関在籍者を中心に劇的増加を果たした。また、ウズベキスタンはここ数年ほぼ倍、倍の増加を見せている。

▶ 出身地域別留学生数　（2018 年5月 1 日現在）

地域名	留学生数（人）	構成比（%）	前年比増減率（%）
アジア	279,250（249,242）	93.4（93.3）	12.0　（12）
欧州	10,115　（8,669）	3.4　（3.2）	16.7　（8.6）
北米	3,415　（3,182）	1.1　（1.2）	7.3　（5.7）
アフリカ	2,380　（2,230）	0.8　（0.8）	6.7　（15.4）
中南米	1,546　（1,426）	0.5　（0.5）	8.4　（2.6）
中東	1,457　（1,533）	0.5　（0.6）	▲ 5.0（▲ 8.3）
大洋州	809　（756）	0.3　（0.3）	7.0　（14）
その他（無国籍）	8　（4）	0.0　（0.0）	100
計	298,980（267,042）	100.0（100）	―

（　）内は 2017 年 5 月 1 日現在の数

▶ 出身国（地域）別留学生数　（2018 年5月 1 日現在）

国（地域）名	留学生数（人）	構成比（%）	前年比（%）	国（地域）名	留学生数（人）	構成比（%）	前年比（%）
①中国	114,950（107,260）	38.4（40.2）	107.2	⑰フランス	1,493（1,346）	0.5（0.5）	110.9
②ベトナム	72,354（61,671）	23.1（22.5）	117.3	⑱ドイツ	924（888）	0.3（0.3）	104.1
③ネパール	24,331（21,500）	8.1（8.1）	113.2	⑲カンボジア	913（846）	0.3（0.3）	107.9
④韓国	17,012（15,740）	5.7（5.9）	108.1	⑳ロシア	771（701）	0.3（0.3）	110.0
⑤台湾	9,524（8,947）	3.2（3.4）	106.4	㉑イタリア	715（654）	0.2（0.2）	109.3
⑥スリランカ	8,329（6,607）	2.8（2.5）	126.1	㉒ブータン	714（97）	0.2（0.0）	736.1
⑦インドネシア	6,277（5,495）	2.1（2.1）	114.2	㉓英国	703（640）	0.2（0.2）	109.8
⑧ミャンマー	5,928（4,816）	2.0（1.8）	123.1	㉔ブラジル	466（425）	0.2（0.2）	109.6
⑨タイ	3,962（3,985）	1.3（1.5）	99.4	㉕オーストラリア	460（470）	0.2（0.2）	97.9
⑩バングラデシュ	3,640（2,748）	1.2（1.0）	132.5	㉖スウェーデン	425（525）	0.1（0.2）	81.0
⑪モンゴル	3,124（2,517）	1.0（0.9）	124.1	㉗シンガポール	408（397）	0.1（0.1）	102.8
⑫マレーシア	3,094（2,945）	1.0（1.1）	105.1	㉘パキスタン	397（339）	0.1（0.1）	117.1
⑬アメリカ	2,932（2,786）	1.0（1.0）	105.2	㉙スペイン	386（400）	0.1（0.1）	96.5
⑭フィリピン	2,389（1,806）	0.8（0.7）	132.3	㉚カナダ	396（361）	0.1（0.2）	109.7
⑮ウズベキスタン	2,132（1,047）	0.7（0.4）	203.6	その他	8,137（7,812）	2.7（2.9）	104.2
⑯インド	1,607（1,236）	0.5（0.5）	130.0	計	298,980（267,042）	100.0	

（　）内は 2017 年 5 月 1 日現在の数

高等教育機関における留学生受入れ状況

▶ 出身地域別高等教育機関在籍留学生数（2018 年5月 1 日現在）

地域名	留学生数（人）	前年比（%）	構成比（%）	短期留学生数と各留学生数に占める割合
アジア	192,935（173,303）	111.3	92.4（92.0）	12,058 人（6.2%）
欧州	7,250（6,685）	108.5	3.5（3.5）	3,751 人（51.2%）
北米	3,016（2,860）	105.5	1.4（1.5）	2,001 人（66.3%）
アフリカ	2,223（2,108）	105.5	1.1（1.1）	110 人（4.9%）
中南米	1,364（1,287）	106.0	0.7（0.7）	326 人（23.9%）
中東	1,363（1,453）	93.8	0.7（0.8）	101 人（7.4%）
大洋州	742（685）	108.3	0.4（0.4）	326 人（43.9%）
その他（無国籍）	8（3）	266.7	0.0（0.0）	0 人（0）（-）
計	208,901 人（188,384）	110.9	100.0（100.0）	18,673 人（9.9%）

（　）内は 2017 年 5 月 1 日現在の数

欧米は半数以上が留学期間 1 学年以下の短期留学生となっている。一方アジアは長期留学生が大多数を占める。

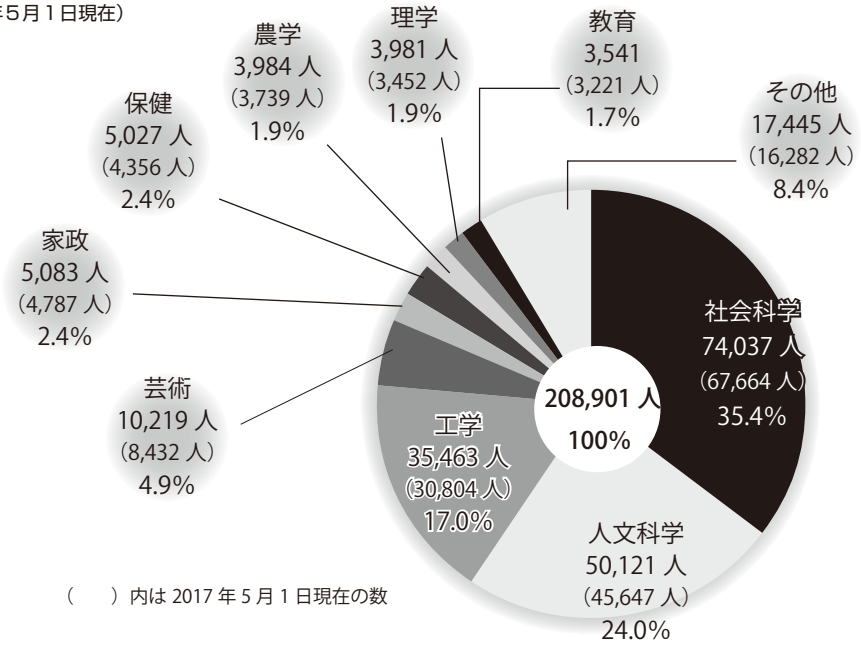
▶ 出身国（地域）別高等教育機関在籍留学生数（2018 年5月 1 日現在）

国（地域）名	留学生数（人）	構成比（%）	国（地域）名	留学生数（人）	構成比（%）
①中国	86,439（79,502）	42.2（42.2）	⑰ドイツ	877（831）	0.4（0.4）
②ベトナム	42,083（35,489）	20.1（18.8）	⑱ウズベキスタン	705（441）	0.3（0.2）
③ネパール	15,329（14,850）	7.3（7.9）	⑲カンボジア	663（560）	0.3（0.3）
④韓国	14,557（13,538）	7.0（7.2）	⑳英国	629（563）	0.3（0.3）
⑤台湾	7,423（6,994）	3.6（3.7）	㉑ロシア	548（512）	0.3（0.3）
⑥インドネシア	4,719（4,235）	2.3（2.2）	㉒イタリア	474（436）	0.2（0.2）
⑦スリランカ	4,429（3,020）	2.1（1.6）	㉓カナダ	420（344）	0.2（0.2）
⑧ミャンマー	3,385（2,686）	1.6（1.4）	㉔ブラジル	416（385）	0.2（0.2）
⑨タイ	3,241（3,266）	1.6（1.7）	㉕オーストラリア	403（411）	0.2（0.2）
⑩マレーシア	2,897（2,750）	1.4（1.5）	㉖シンガポール	366（357）	0.2（0.2）
⑪アメリカ合衆国	2,596（2,516）	1.2（1.3）	㉗エジプト	339（342）	0.2（0.2）
⑫バングラデシュ	2,444（1,919）	1.2（1.0）	㉘サウジアラビア	332（399）	0.2（0.2）
⑬モンゴル	1,965（1,711）	0.9（0.9）	㉙メキシコ	315（274）	0.2（0.1）
⑭フランス	1,221（1,116）	0.6（0.6）	㉚スペイン	272（270）	0.1（0.1）
⑮フィリピン	1,184（914）	0.6（0.5）	その他	7,067（6,789）	3.4（3.6）
⑯インド	1,163（964）	0.6（0.5）	計	208,901（188,384）	100.0（100.0）

（　）内は 2017 年 5 月 1 日現在の数

▶ 専攻分野別高等教育機関在籍留学生数

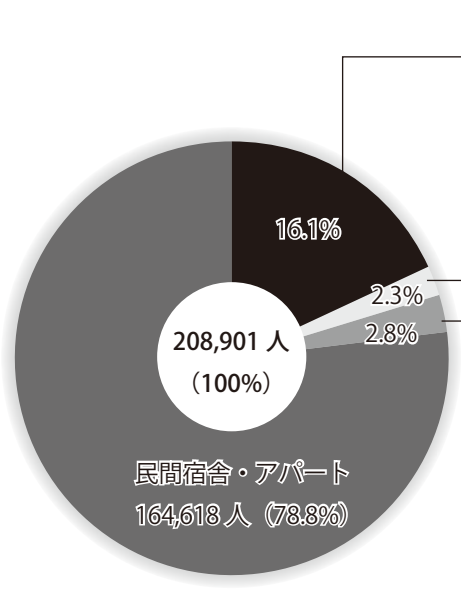
（2018 年5月1日現在）



（　　）内は 2017 年 5 月 1 日現在の数

▶ 高等教育機関在籍留学生の宿舎状況　（2018 年5月1日現在）

大学等および公益法人等が設置するに宿舎に住む留学生数は 2013 年度比で 1 万 3 千人以上増加しているが、留学生の増加率には追いついておらず、民間宿舎への依存度は高い。



学校が設置する留学生宿舎（33,534 人）
- 国立大学等　89 校　13,787 人
- 公立大学等　36 校　882 人
- 私立大学等　391 校　18,865 人

公益法人等が設置する留学生宿舎（4,908 人）
- 日本学生支援機構設置留学生宿舎　747 人
- 地方公共団体設置留学生宿舎　1,022 人
- 公益法人設置留学生宿舎　1,234 人
- 公営住宅等　1,344 人
- 民間企業の社員寮　561 人

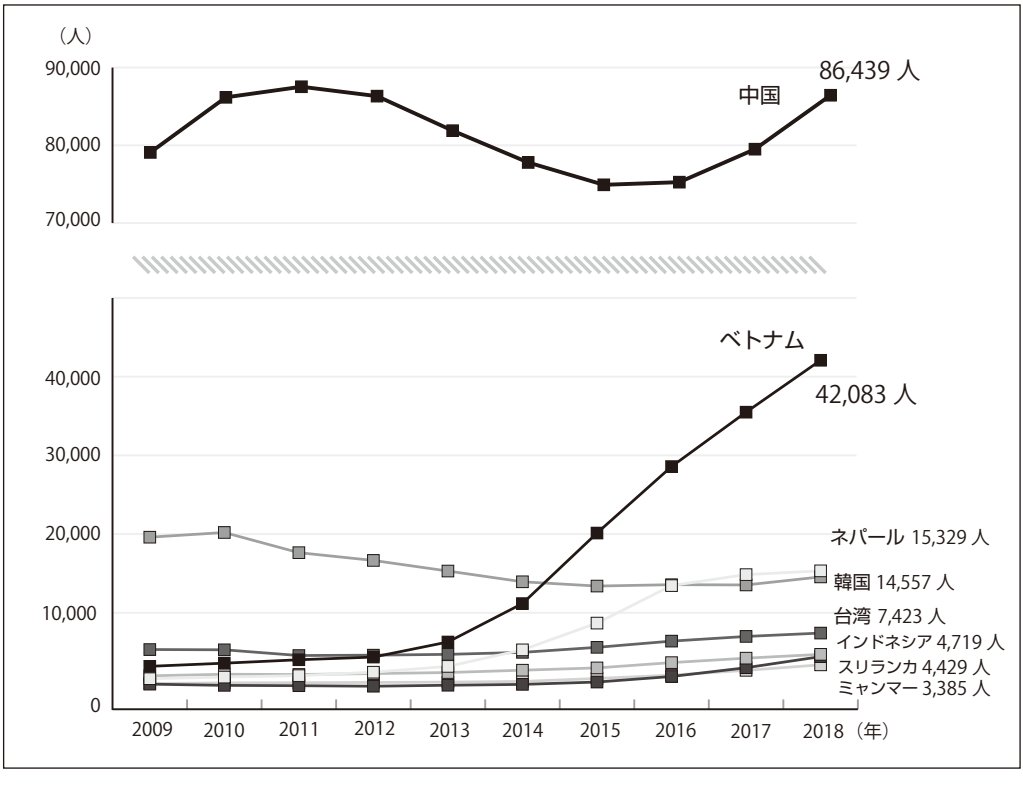
学校が設置する一般学生宿舎（5,841 人）
- 国立大学等　92 校　2,490 人
- 公立大学校等　11 校　231 人
- 私立大学校等　227 校　3,120 人

▶ 高等教育機関在籍留学生数上位国の推移　（2018 年5月１日現在）

2016 年度から数年ぶりに増加した中国が久しぶりに 5,000 人以上の増加を見せ、ベトナムの増加数を上回った。前年初めて韓国を抜いて 3 位となったネパールは微増。韓国が 100 人以上の増加となったため、差は縮まった。スリランカは 2 年続けて 1,000 人以上増加した。

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
中国	79,082	86,173	87,533	86,324	81,884	77,792	74,921	75,262	79,502	86,439
ベトナム	3,199	3,597	4,033	4,373	6,290	11,174	20,131	28,579	35,489	42,083
ネパール	1,628	1,829	2,016	2,451	3,188	5,291	8,691	13,456	14,850	15,329
韓国	19,605	20,202	17,640	16,651	15,304	13,940	13,397	13,571	13,538	14,557
台湾	5,332	5,297	4,571	4,617	4,719	4,971	5,610	6,401	6,994	7,423
インドネシア	1,996	2,190	2,162	2,276	2,410	2,705	2,995	3,670	4,235	4,719
スリランカ	934	777	737	670	794	902	1,200	1,905	3,020	4,429
ミャンマー	1,012	1,093	1,118	1,151	1,193	1,280	1,652	2,079	2,686	3,385
タイ	2,360	2,429	2,396	2,167	2,383	2,676	2,904	3,185	3,266	3,241
マレーシア	2,395	2,465	2,417	2,319	2,293	2,361	2,460	2,581	2,750	2,897

各年 5 月 1 日現在。単位（人）



日本語教育機関在籍者数の上位国・地域

2016 年度以来、抜きつ抜かれつとなった中国とベトナムだが、昨年の中国に代わり再びベトナムが 1 位となった。中国とベトナム両国で日本語教育機関在籍留学生の 65% を占めている。
最近 5 年間の伸びが大きいのは、ウズベキスタン 26.4 倍、ミャンマー 6.3 倍、ベトナム 4.0 倍、ネパール 3.4 倍、スリランカ 15.0 倍、フィリピンが 8.5 倍、インドネシア 4.1 倍など。
自国の留学生に占める日本語教育機関在籍者数の割合が高いのは、ウズベキスタン 67%、フィリピン 50%、スリランカ 47%、ミャンマー 43%、ベトナム 42% といったところ。中国、台湾、インドネシアは 20% 台、韓国は 10% 台と割合が低い。

▶ 出身地域別日本語教育機関在籍留学生数　（2018 年 5 月現在）

地域名	留学生数（人）	構成比（%）	前年比（人）	前年比（%）
アジア	86,315	95.8	10,376	113.7
欧州	2,865	3.2	881	144.4
北米	399	0.4	77	123.9
中南米	182	0.2	43	130.9
アフリカ	157	0.2	35	128.7
中近東	94	0.1	14	117.5
大洋州	67	0.1	▲ 4	94.3
その他（無国籍）	1	0.0	▲ 1	50
計	90,079 人	100.0%	11,421 人	15.4%

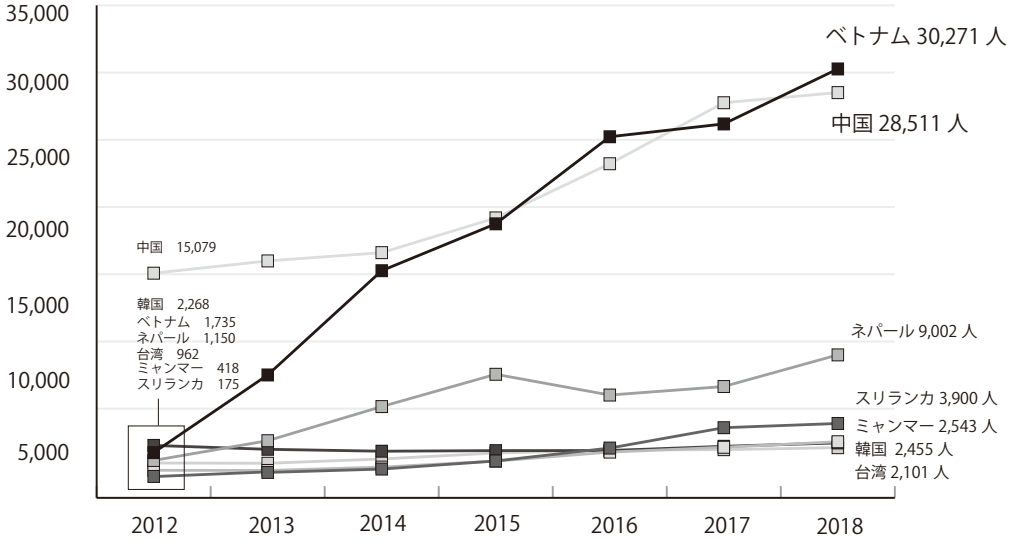
▶ 出身国（地域）別日本語教育機関在籍留学生数　（2018 年 5 月現在）

国・地域	留学生数（人）	構成比（%）	前年比（人）	自国留学生に占める割合（%）
ベトナム	30,271	33.6	4,089	42
中国	28,511	31.7	753	25
ネパール	9,002	10.0	2,352	37
スリランカ	3,900	4.3	313	47
ミャンマー	2,543	2.8	413	43
韓国	2,455	2.7	316	14
台湾	2,101	2.3	148	22
インドネシア	1,558	1.7	298	25
ウズベキスタン	1,427	1.6	821	67
フィリピン	1,205	1.3	313	50
その他	7,106	7.9	1,668	―
計	90,079	100.0	11,421	30.1

▶ 日本語教育機関在籍留学生数上位国（地域）の年別学生数（人）（各年５月１日現在）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
ベトナム	7,509	15,265	18,751	25,228	26,182	30,271
中国	15,991	16,607	19,190	23,221	27,758	28,511
ネパール	2,619	5,157	7,559	6,015	6,650	9,002
スリランカ	260	510	1,112	2,071	3,587	3,900
ミャンマー	405	655	1,103	1,772	2,130	2,543
韓国	1,979	1,837	1,882	1,886	2,202	2,455
台湾	941	1,260	1,704	1,929	1,953	2,101
インドネシア	377	483	605	960	1,260	1,558
ウズベキスタン	54	84	136	258	606	1,427
フィリピン	142	207	381	553	892	1,205

▶ 日本語教育機関在籍留学生数上位国（地域）の推移（各年５月１日現在）



グラフは全て独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の調査結果より作成

インド・ムンバイ AAAWI の 25 周年記念式典に参加して

ABK 常務理事 布施知子

思いがけずインド・ムンバイの AAAWI 創立 25 周年式典に招待され、2019 年 2 月 16 日（土）、ムンバイの国際空港に近いホテル The LaLit Mumbai で開催された AAAWI 創立 25 周年記念セミナーと式典・祝賀会に参加した。AAAWI は AOTS※ Alumni Association of Western India（西インド AOTS 同窓会）の略称で、1993 年に創立。会員は“アーウィ”と親しみを込め呼んでいる。ご存知のようにムンバイは西インドに立地するインド最大の都市で、AAAWI は現在、AOTS のインドにおける主要活動連携拠点の一つとして位置付けられており、2006 年には第 7 回 AOTS 同窓会代表者会議が開催されている。

Conference 会場の看板

※ AOTS ＝財団法人 海外技術者研修協会（現 一般財団法人海外産業人材育成協会）

AAAWI 25 周年記念セミナー（Conference）

2 月 16 日の朝から開始された AAAWI 25 周年記念セミナーには、野田亮二在ムンバイ日本国総領事、桑山信也（一財）海外産業人材育成協会（AOTS）理事長、神田久史 AOTS ニューデリー事務所長、AAAWI 初代会長 Ghista 夫人、ABK の布施等の海外からのゲスト、インド各地域の AOTS 同窓会代表、スリランカ、ネパール等の近隣諸国の AOTS 同窓会代表に AAAWI のメンバー等が加わり、200 名以上が参加した盛大な AAAWI25 周年記念セミナーが開催された。

セミナーは初めに主催者によるインドの伝統儀式であるガネーシャ神(*)への燈明の儀で開始され、AAAWI の Anjani 会長のご挨拶、来賓のお祝いの言葉の後、『Together India-Japan（印日共に）』と題したセミナーは、午前の部、午後の部、計 14 名の印日の専門家による様々な企業の取り組みや最新技術・情報・事例等のプレゼンテーションと熱心な質疑応答が終日繰り広げられた。

AAAWI が活動を続けるムンバイは、工

セミナー概略：

1）"Yokohama Sister City relationship with Mumbai" by ムンバイと姉妹都市の横浜市ムンバイ事務所長、
2）"Japan Economy and Opportunity" by JETRO ムンバイ所長、
3）"Logistics and Shipping"by 日本郵船（NKY）インド・ディレクター、
4）"Flow Management in Manufacturing"by GODREJ 社副社長、
5）"Impex"by Helpline Impex 社 /EXIM Institute ディレクター、
6）"All Nippon Airline" by 全日空エリアマネジャー
7）"From Fast to Being Smart" by マルチスズキ社シニアエグゼクティブディレクター
8）"Smart Factory solutions"by DGM Robot sales Panasonic Welding System India
9）"e-factory solutions" 三菱電機インド・シニアマネージャー
10）"Recent Developments in IPR in India" by 特許・デザイン事務所のアシスタントコントローラー
11）"Focus on Pharm" by 特許代理人事務所代表
12）"Smart devices in Healthcare System" by Nagpur 大学副学長
13）" 新技術ワークショップ " by Electrical &Automation L &T 部長
14）"Ease of doing business" by Alpha グループロンドン・アソシエイトディレクター

業、IT 産業、金融、娯楽産業などの発展するインド最大の都市で、古くからの港湾都市でもある。このムンバイで長年 ABK、AOTS 同窓会の研修生が、帰国後自発的に自国の発展と地域社会への貢献をめざし日本への研修生送り出し等の活動を続けてきたが、AAAWI になって後は更に AOTS 事業の現地の重要なパートナーとしての役割を担い様々な活動を展開しています。今後もインドの更なる発展と、近隣諸国との協力・友好関係の構築に重要な役割が期待される Conference であった。

AAAWI 創立 25 周年式典・祝賀会

AAAWI 創立 25 周年式典並びに祝賀会はセミナーと同じ会場で 18 時から 21 時過ぎまで来賓、海外からのゲスト、インド各地域の AOTS 同窓会代表、近隣諸国の AOTS 同窓会代表、AAAWI の会員並びに会員の家族も加わり 300 名を超える盛大な会となった。式典もインド伝統の儀式であるガネーシャ神への燈明の儀で再び開始され、AAAWI の Anjani 会長の挨拶で始まり、野田ムンバイ日本国総領事、桑山 AOTS 理事長、初代 AAAWI 会長夫人他来賓のご挨拶と表彰等が行われた。また、祝賀会では南インドの伝統的な踊りや歌、そして日本の福笑いゲームを日本語を学ぶ学生が披露し、更に若い世代の映像作家による大変美しい日本のビデオ映像が紹介されたのも印象的だった。

現在の AAAWI は、1960 年 ～ 1981 年

▲ "Together India-Jpan" Conference 開会式冒頭で挨拶する野田ムンバイ日本国総領事

▲ 式典・祝賀会場 ; 挨拶する桑山 AOTS 理事長

▲ AOTS 主催夕食会で（AAAWI 幹部役員）

▲ AAAWI 主催夕食歓迎会で

に日本で研修を受けた ABK 同窓会ボンベイ時代の研修生、1982 年 AOTS が東京研修センター（TKC）へ移転してからの AOTS 同窓会ボンベイ時代の研修生、そして、1993 年に設立した AAAWI（西インド AOTS 同窓会）のメンバーが混在している。AAAWI のホームページ（http://www.aaawi.org/whatsnew.html）を見ると、AAAWI 創立メンバーには、ABK 同窓会、AOTS 同窓会の主要メンバーが参加しており、また、AAAWI 創設後、創立メンバーの多くが会長職に就かれ AAAWI の活動を牽引してきている。従って、今回の AAAWI 創立 25 周年記念ではあるが、ムンバイ研修生たちの中にはすでに 50 年以上に及ぶ同窓会活動を継続している人もいることになる。自発的な活動という意味では称賛に値する活動であり、今や AOTS のパートナーとして、日本に不可欠な存在となっているといえるのではないだろうか。

更に驚いたことに、翌日 AOTS 同窓会の南アジア AOTS 同窓会連合（SAFAAS）の会議がネパールで開催されるとのことで、AAAWI 創立 25 周年行事に参加さ

ABK同窓生 Ramamurty さんと

れていた桑山 AOTS 理事長一行、インド各地の AOTS 同窓会代表、スリランカ・ネパールの AOTS 同窓会代表、それに AAAWI25 周年行事の陣頭指揮を執っていた Pravin 事務局長も疲れも見せず張り切って、翌朝早朝にネパールに向けムンバイを飛び立った。各国・地域の同窓会の皆さんは、このような機会を通じて同窓会活動の意義を実感し、互いの交流を深め、協力し合い、かつ楽しみながら共存共栄の実を上げる努力を積み上げているのだなと思った次第です。

（*）ガネーシャ神は、ヒンドゥー教の神の一柱。サンスクリット語で「群衆（ガナ）の主（イーシャ）」を意味する。太鼓腹の人間の身体に 片方の牙の折れた象の頭をもった神で、4 本の腕をもつ。障害を取り去り、また財産をもたらすと言われ、事業の開始と商業の神、学問の神とされている。インドのマハーラーシュトラ州を中心にデカン高原一帯で多く信仰されている。

AAAWI の事務所訪問

式典の前日には、AAAWI の事務所を表敬訪問した。事務所は AAAWI 創設（1993 年）後、（財）日本船舶振興協会財団（現（公財）日本財団）より資金援助を受け、ムンバイ空港から車で 1 時間程の Wadala 地区にある India Printing House ビルのフロアーを買い取り活動拠点としている。普段はここで、技術・経営セミナー、日本語コース等を開設している。また、部屋が空いている時には貸し出をしているとのことで、私が訪問した時にも外部団体が使っていて 40 ～ 50 名のセミナーが行われていた。

事務所で Pravin 事務局長と、Sunil 会計

▲ AAAWI 事務所にて JLPT テキスト寄贈
左 Sunil 会計担当理事、中央 Pravin 事務局長

▲ AAAWI 事務所内

▲ AAAWI の 25 周年の手伝いにプネ―大学から来ていた日本語が堪能な学生達（AAAWI の事務所）。左は日本からの留学生

担当理事に会い、持参した財団作成・TRY の日本語能力検定用テキスト（5 級～ 1 級）を 2 セット寄贈した。AAAWI は検定試験コースを開催しているとのことで大変喜ばれた。ボンベイでも日本語学習者の数は増加傾向にあると言っていた。

現在 AAAWI は、AOTS の支援・協力の下、日本人専門家を招聘したセミナーの開催、インド人専門家によるセミナーの開催、AOTS との協力で、南南協力として近隣諸国からの研修生の受入れやセミナーの開催、日本からのインターンの受け入れを行うほか、日本語コースの開催、日本文化の紹介等も行っている。

ムンバイは終日車が溢れていて、いたるところすさまじい渋滞、渋滞、・・・。25 周年記念行事の準備で忙しい執行部の方々が、私のムンバイ空港到着から帰国まで、交代で移動時の出迎え見送り等きめ細かいフォローをして下さいました。久々に南インドの方々のホスピタリティをこの大都市ムンバイでも受けることができました。この場を借りて改めて AAAWI の皆様に、感謝申し上げる次第です。

プネ―訪問

AAAWI からのご招待の行事が完了したので、翌日ムンバイのあるマハーラーシュトラ州の第 2 の都市プネ―を訪問した。プネーには 1979 年度の元 ABK 同窓会推薦研修生 Ashok S. さんがいて、折よく訪印前に連絡が取れた。ムンバイまで行くことを伝えると、ムンバイまで迎えに行くので泊まりに来て欲しいと。残念ながら時間が限られているので、飛行機で日帰りでプネーに行きたいので、プネ―でのコーディネートをお願いしたいと依頼する。プネ―訪問の目的の 1 つ目は、2006 年 12 月に亡くなった R. R. Divekar さんのお墓参りをすること。2

▲ AASCI の幹部役員と。左から Thakar さん、Soman さん、Divekar 未亡人、布施、砂内さん、Joshi 会長、Raykar さん

▲ AASCI の事務所の前で

▲プネ―印日協会 (IJAP) 日本語講師、スタッフと。右手前 Ashok さん

つ目は、Divekar さんが長年力を入れてきたプネ―の日本語教育に関連して、彼が長年会長を務めて日本語教育の普及に努めてきたプネ―印日協会訪問。3 つ目は、プネ―大学訪問。4 つ目は、前出の Ashok さんのご家族に会うことだ。

結局、飛行機は飛行場までムンバイで、プネーで、ともに往復時間がとられるとのことで、Ashok さんがプネーで車をチャーターしてムンバイに前日来て、翌朝、早朝チャーター車で一緒にムンバイ→プネー→ムンバイと高速道路を使い移動することになった。車はトヨタ車で乗り心地もよく運転手のスキルも素晴らしかった。その上、チャーター料金も Ashok さんの交渉でかなり安くお願いできた。

プネーはムンバイの南約 170Km の海抜 600 メートルの高原にある。ムンバイの富裕層の避暑地として発達したとのことだ。また、教育・研究の中心地としても全国的に有名で、多くの有名な研究施設や高等教育機関がある。また、近年、IT 産業を中心に目覚ましい発達を遂げ、新しい街並が郊外にも広がっている。ソフトウエアの会社もたくさんあるようだ。従ってプネ―の若者には IT 関連企業を中心に職場も多く、給与も高く最近では親と離れてコンドミニアムに暮らす人が多くなっているとのことだ。また、プネーは緑豊かな美しい都市だが、自宅の木の枝一本を切るのにも市の許可が下りるのにかなり時間がかかり困ることもあるといっていた。

ムンバイのホテルから普通道と高速道路を使い片道約 3 時間半をかけプネーに着き、最初に訪ねたのは、Divekar 夫人だ。ご自宅で会うものとばかり思っていたたが、自宅ではなく AASCI（AOTS Alumni Society of Central India; 中央インド AOTS 同窓会）の事務所だった。AASCI の事務所には、昨日ボンベインの AAAWI25 周年式典で名刺を交換した会長の Joshi さんはじめ幹部役員 5 名が集まっていた。夫人に持参した花を手渡し、AASCI の事務所に掛けられた Divekar さんの写真の前で、全員で黙とう

▲ IJAP の日本語 N2 クラス

▲ N2 クラス講師の Ashwini 先生

▲ N4 クラスの学生と

した。Divekar 夫人も同窓会研修生として北辰電機製作所で研修を受けた同窓生であり、現在は AASCI の副会長で、ソフトウエアと翻訳会社のオーナーでもあり、またボランティアで生花の池坊プネ―支部の会長としても活躍している。実は、同席者の中の一人から「布施さんお久しぶりです」と言われたが誰だかわからないでいると、持参してきたセピア色に変色した昔の写真 10 枚ほどを見せられた。彼は 1975 年に ABK 同窓会推薦研修生として来日し、北辰電機製作所で研修を受けた Soman さんだった。実に 43 年ぶりである！！　全く予期していないことであり、信じられない思いと同時に嬉しさがこみあげてきた。更にもう一人の AASCI 執行役員の Thakar さんも Soman さんと同時期に ABK にいた研修生だ！！

プネー同窓会事務所での委員の皆様との対話では、日本の中小企業でプネーに来る会社はないかという話も出た。

Soman さん、Thakar さんともう少し話をしたかったが、まだ約束の予定が残っているので、AASCI の事務所を後にして、プネ―印日協会（IJAP）に向かう。

プネーでは Divekar さんが 1965 年から日本語を教え始め、その後の日本語教育の普及への努力もあり、日本語学習者の数は現在も多い。プネ―で日本語学習ができる主なところとして、1）プネ―印日協会、2）ティラック・マハラシュトラ大学（学士課程、修士課程）、3）サビトリバイ・フレ大学、4）私塾、個人授業。

▲ IIT Bombay 校管理棟（Main Building）

◀広大な敷地。全寮制で校内の移動は、バスか自転車のため、自転車はいたるところに溢れていた

▶大学構内にある広大な自然豊かな湖、Powai 湖。Wagle さんと

プネ―印日協会の日本語講座は、1971 年から始まっている。現在は 2 拠点で行われていた。元 AOTS の佐藤正文さんのご紹介でプネー印日協会の Ashwini 先生を訪ねた。印日協会では初級、中級、上級日本語と日本語能力試験（JLPT）準備コース、更にビジネス通訳養成講座も開講している。訪問が土曜日ということもあり 20 代の会社人の受講者が多かった。ここも生徒は圧倒的に女性が多い。授業をしていた JLPT の 2 級及び 4 級クラスを見学した。2 級クラスの人の中にはかなり会話の上手な学生もいる。Ashwini 先生のクラスは視聴覚機材も充実していていた。Ashwini 先生は、印日協会で 16 年、ティラック・マハラシュトラ大学で 8 年間教え、またフリーランスの通訳としても活躍している。先生は、日本の政策大学院大学に留学し修士を取得している。現在のプネ―印日協会の先生は全員 Ashwini 先生の教え子とのことで、中には国際交流基金のコースに参加している先生もいた。優秀な学生を日本に送り出す機会があれば、さらに学習意欲が高まるのだが、そうした機会がなかなかないと話していた。

プネー大学訪問は残念ながら時間が取れず断念する。

（＊）Mr. R.R.Divekar：1963 年にヒンズー日立研修生で来日。当時は船でボンベーと横浜を往復している。ABK で日本語を 5 週間勉強した後、

▲ IITB の校内の日本の企業が出店する SHIRUCAFE

▲ SHIRUCAFE ではインターンシップ制度を利用した日本の大学生 4 名が交代で働いていた

ABK のスピーチコンテストで、並み居る留学生の参加する中、5 位に入賞した伝説の人でもある。そして、帰国後プネ―ABK 同窓会を立ち上げ、1965 年から日本語を教え始め、ボランティアで通訳もしている。プネー同窓会は 1967 年からほぼ毎年 ABK 同窓会研修生推薦制度で研修生を日本に送り出してきた。1984 年からはプネー AOTS 同窓会、その後は AASCI（中央インド AOTS 同窓会）の会長として AOTS のパートナーとしてインドの企業人材の育成に貢献され、かつ日本語教育の普及促進、日本文化の紹介等を積極的に行い印日交流に貢献され、また 2015 年「和印」辞書を作成・出版。そうした貢献に対し 2008 年に日本政府より「旭日双光賞」を叙勲されている。2016 年 12 月没。

ＩＩＴ Bombay 訪問

1970 年代前半、新星学寮・ABK に学生で在住し、その後一時当財団にも勤めたことのある砂内さんが、ムンバイに在住していると聞き及び、連絡先が入手でき事前に連絡が取れた。まだムンバイにいるというので、現地で会って話を聞くことになった。彼は、現在 IIT Bombay 校 (*1) で日本語を教えているとのことで、よい機会なので大学を案内していただこうと考えていた。IIT Bombay（IITB）見学は、ムンバイ最後の日しか当てられなかった。最後の日といっても夜 8 時の便に乗ることになっていた。

ムンバイ最後の日には、朝から Arun Wgle (*2) 夫妻がホテルに来てくださり、今日は空港まで送るのでそれまで行きたいところに案内するとのことだった。タイトな出張スケジュールで観光に関しては何も調べもてない。また数日の経験だけだが、市街の道路の渋滞はどこも酷く行ける所は限られるだろうと考え、比較的ホテルにも近いという IITB の見学を優先させた。ホテルをチェックアウトしてスーツケースを Wagle さんの車に積んで IITB へ向った。やはり車の流れはすいすいとはいかなかったが、渋滞の車の中では、Wagle さんから 48 年前の ABK 滞在当時の話、研修先の話など伺うことができた。

IITB の中は喧騒から離れた別天地だ。プネーの Ashok さんはここの卒業生だが IITB のことを Powai と言っていた。大学の広大な敷地の中に、これまた大きな湖があり、その名前が、Powai 湖だった。Powai 湖には、魚も多くワニも生息していると聞く。また、学内には背の高い木々が多く多種多様な鳥、リス、時には豹が現れたこともあったと聞き驚く。Wagle さんはバードウオッチングの会員で、Powai には時々来ると言っていた。

IITB は全寮制で教師も敷地内に住んでいるので、先生の都合で夜授業が開かれることも時々あると聞く。構内移動にはメインゲート、寮、教室、研究室を巡回するバスが運行されているが、学生は自転車が必須で、構内の教室のある建物の周辺にはかなりの数の自転車がとめられていた。案内をしてくれた砂内さんの話では、先週東大の学生と先生が 10 名ほど IITB に来て学生寮に滞在し、日本語を学ぶ学生と交流したり、大学の内外を見学して日本に戻ったばかりだと言っていた。また、IITB の中に SHIRUCAFE という日本の会社が運営するコーヒーショップ（無料提供）があり、現在日本の大学生 4 名がインターンとして派遣され交代で運営していた。IITB の優秀な学生のリクルート窓口になっているようだ。

最後に、IITB の日本語コースは大学の 3 年生以上博士課程までの学生と研究者が受講できる。年度初めには 80 名位からスタートするが、終了時までには 1 / 4 ほどになってしまうと言っていた。まだまだインドでは日本語に対するインセンティブが低いようだ。

▲ 朝から夜の空港見送りまで終日、引率してくれた Wagle さんご夫妻（ムンバイ空港で）

（*1）IIT Bombay 校：Indian Institute of Technology, Bombay: インド工科大学ボンベイ校；インド工科大学は工学と科学技術を専門とする大学で、理工系の最高学府。現在、インド国内に 16 校ある。1951 年にジャワハルラール・ネルーにより第 1 校が設立され、ボンベイ校は 2 番目の 1958 年に設立された。卒業生は世界中で活躍している。

（*2）Mr. Arun Wagle：ABK 同窓会推薦研修生制度で 1970 年に ABKD ボンベイセンターから推薦され来日。ABK で日本語を学び、その後、埼玉県の北電子で研修を受けた。（50 年近くなる昔の出来事を今でも鮮明に覚えている。）帰国後、ボンベイ ABK 同窓会、AOTS 同窓会での活動を経て AAAWI の創設者の一人。2008 年～2011 年に AAAWI の会長に就任。現在、すでに 80 歳を超えているが会社を経営し、いまだ現役。

ABK 草津万座温泉スキーツアー

アジア文化会館（ABK）では、2月2日・3日、2年ぶりとなる研修旅行を実施しました。今回の目的地は草津万座温泉スキー場（群馬県）。学生 35 名、職員 4 名の総勢 39 名が参加し、雪と温泉を満喫した 1 泊2日の旅でした。
なお今回の旅行は佐藤基金（故佐藤亮一氏夫人説子様よりのご寄付）のご支援をいただき実施いたしました。

今回参加の学生たちのほとんどはスキー・スノボ初体験。本格的な雪を見るのも初めてという者も多い中、いきなりリフトで上まで上り、何度も転びながらも諦めずに下まで滑り続ける逞しさに、スタッフ一同感心しきりでした。ホテルは万座温泉一の老舗である日進舘。学生たちは日本一と言われる露天風呂や豪華な懐石料理を楽しんだあと、夜は全員参加の討論会で熱い議論を戦わせました。
以下、旅行の感想文を参加者数名からいただいたので、ご紹介します。

参加者感想文

バトゥナサン ガンバドゥラハ ＜モンゴル＞

アジア文化会館の日本語学校生、フロアと職員を含む 31 名が 2 月 2 日と 3 日に群馬県の万座温泉に行き、様々なアクティビティをしてきた。現地は日本の自然の美しさがよく見て取れるような綺麗な場所であった。留学生は有名な万座温泉に入ったり、近所のスキー場で滑ったりして時間を楽しく過ごした。また、我々の中には温泉は初めてという人がいれば、スキーは初めてという人もいたので、経験者の留学生が初心者に一から教えてあげた。それが我々の友情をもっと深めてくれたのである。さらに、温泉とスキー以外にも留学生同士が

グローバルに働くことについて討論会を行い、様々な背景と考え方を持つ人と意見交換をして頭の筋トレもできた。普段は討論会をする機会があまりない我々にとって著しくよい練習になったのである。

近年グローバル化が進んでいる中で我々が今回の合宿でつくった交友関係は国境を越えてこれからもいっそう有意義になっていくに違いない。

最後に、今回の合宿にご協賛いただいた佐藤亮一・説子様に心より感謝申し上げます。

アラパティ エメトジャン

＜中国（新疆ウイグル自治区）＞

今回の旅行は天候に恵まれ、一言で感想を言うのなら「最高」ということです。私にとってはたくさんの初体験が誕生しました。まず、宿泊した和風の旅館が大きくて、チェックインしたロビーから自分の部屋に行くまでに、三つのエレベーターを乗り継がないといけないという、大変複雑な構造でした。

荷物を置いて早速スキー場へ出かけました。私はスキーを選びましたが、やり方がさっぱりわからなくて、同行の亀山先生に基本的なことを教えていただきました。そして少し滑れるようになってから、リフトに乗ってみました。しかし、下から見上げた時はそれほどでもないと思っていたのですが、上って見ると想像以上に恐ろしい風景が広がっていました。それでも勇気を持って、急な斜面を滑って行った結果、何度も転びながらもなんとか下まで滑ることが出来ました。

ホテルに戻って、いよいよ夕食会の時間でした。広い別室の中に入ったら、食卓の上にずらっと並んでいたのは高級そうな和食でした。僕は刺身が食べられないので、他の料理用に出されていた小さな鍋で煮てから食べましたが、全て美味しくいただきました。

また、いろいろな温泉を楽しむことも出来ました。ここの温泉は湯治効果もあるそうです。中でも一番印象に残っているのは露天風呂です。マイナス 14 度という気温の中、満天の星と高く積もった雪景色を眺めながらお風呂に入るのは、超絶だと思いました。旅館の職員から、「この露天風呂は日本一だ」という話がありましたが、それも納得できました。

食後には討論会をしたり、一つの部屋に集って騒いだり、普段話すことのない他の留学生と交流する機会を持てました。台湾や香港の学生とは中国語で会話をしましたが、彼らは同じ中国語を話しても、大陸の人とは異なる価値観や感性を持っていて、新鮮な驚きでした。

日本の雄大な大自然の中でのスキー旅行は、達成感と充実感を十分に味わわせてくれたと思います。今回、この合宿の機会を作ってくださった、スポンサーの方々、ABK の先生方に感謝いたします。

タンチラワット ケーミン ＜タイ＞

スキーは初めての体験でしたが、見ているのとまったく違って、とても難しかったです。特に私は最初からリフトで上まで行ってしまったので、下りてくるのが大変でした。滑り始めるとどんどんスピードが上がり、コントロールが難しく何度も転んでしまいました。その転び方がひどかったのと、うまく立ち上がれなかったせいか、周りの日本人が心配して「大丈夫ですか？」と声をかけてくれました。

タイ人は雪やスキーに対して憧れのようなものを抱いていますが、現実は大変です。ただ、諦めずに練習をしたおかげで、二日目は転びながらも何とか滑れるようになりました。

スキーのあとは温泉に入りました。雪景色の中の露天風呂は言葉では言い表せないほどの最高の体験でした。温泉は、ほとんどの留学生にとって最初は恥ずかしいわけですが、いろいろな国の人がみな一緒に温泉に浸かり、そこで普段とは違うオープンな気分で会話をして笑いあったりするのは、日本ならではの経験でした。

夜、食事の後にグループに分かれての討論会があったのですが、この時はもうクタクタで眠くて、あまり話に集中できませんでした。テーマも、もっと簡単なもののほうが良かったと思います。また、今回の旅行では初めてスキーをする人が多かったので、最初は初心者向けの簡単なスキー教室があればいいと思いました。

グェン バウ チュン ＜ベトナム＞

今年 2 月、私は ABK の友達とスキーに行く機会がありました。この旅は私に多くの思い出をもたらしてくれました。

旅行する場所は群馬県の嬬恋村でした。ここの景色は本当にきれいです。冬なので場所全体が白い雪に覆われていました。スキーの経験はほとんどなく、ちょっと心配しましたが、幸運にも、とても献身的な先生が私に教えてくれました。そのおかげで何度も転んだあと、少し滑れるようになりました。この時はとても嬉しかったです。そ

して、みんなといっしょにスキーをしたのは本当に楽しい思いでです。

また、新しい友達と出会う機会がありました。同じ ABK の学生でもクラスが違うなどの理由で、ほとんどの人と話したことはありませんでした。でも、この旅行のおかげで、彼らと話すことが出来て、とても面白く良かったと思います。旅行のあと、私たちは連絡を取り合い、そして交流を続けています。私は本当にこの関係を大切にするつもりです。

彼らとはアルバイトや知り合った日本人のことなど、日本での体験について、様々なことで議論をしました。自分の体験をみなと共有してみると、たくさん面白い意見が聴けました。自分の考えをまとめ発言すること、そして新しい話を聞くことはとても楽しくて役に立ちました。

この旅行は面白く、素晴らしい体験でした。またほかのツアーに参加できることを楽しみにしています。

アサンガ　ナーガルラ ＜スリランカ＞

“It was one of the greatest and challenging event of my life”. In 2019 winter, ABK floor students and staff members were decided to go for skiing and snowboarding. The early preparations were made about two months earlier and the date was fixed to 2nd and 3rd of February. On the first day morning we went to Shinjuku bus terminal with ABK friends. It was a direct travel to the destination, and it took around 5 hours. It was a really nice view after we left Tokyo city, everywhere was coved with shiny white color snow. The hotel staff had welcomed us warmly and after a short rest we went to the skiing area.

To be honest, it was my first experience on snow, and I understood many of my friends were the same. Thus, initially we were given a short lesson by an experienced person. However, it was not easy to maintain the balance on the snow. So, many of us fall repeatedly and it was funny moments. We talk, helped each other, share the experiences and trikes for survival on snowboard. At the end the day, everybody was tired and learnt an important lesson: every fall is an

experience, without falling down/take a risk, you will never learn.

On the day 1 evening, we had a comfortable Onsen bath and delicious dinner arranged by the hotel. It was a Japanese traditional dinner table and food were tasty. We all enjoyed the dinner and share the funny experiences on skiing. During the dinner time we had a friendly group discussion where everybody had a chance to talk and interact with others. After that we had a night party with all the members including floor members, ABK students and staff members. It was filled with sweets, drinks and funny games. Even though we were tired after the skiing, everybody had nice time with drinks and making new friends. On the 2nd day morning, after the breakfast we went again for skiing and snowboarding. The morning view was amazing because it was shiny white color. Everybody started their training again. I was decided to climb up the mountain with my friends to see some hard trails of skiing. It was a wonderful site around us, all the area till the horizon was covered with pure white color snow. We took many pictures and people were enthusiastic for skiing. We took an easy trail and started snowboarding. I felt a good improvement in myself but still it was challenging and filled with excitements. We stopped skiing around 1.00pm and sadly left the white color mounts until we see it next winter. Everybody was tired and most of us had painful bodies. We took a small rest at the hotel and packed our things for leaving. All of us were happy because everything was well arranged and none of us had serious injuries. We left the hotel with many thanks to staff members for supporting us during our short stay. Skiing event with ABK friends was filled with happiness, challenging and interactions. We made a lot of friends and worked closely with them. Also, I would thankfully recall the help of ABK staff and sponsors who has given support for this visit.

岡田 雅子（ファー）＜日本（タイ出身）＞

今回のスキーツアーは、私にとって初めてのスキー体験、初めての温泉体験でした。

スノボではなくスキーを選んだのは、友達からスキーのほうが簡単だと言われたからですが、実際はスキーも簡単ではありませんでした。最初、先輩が基本を教えてくれて練習を始めましたが、ほとんど転んでばかりでした。

夕方、少し滑れるようになったかなという時、また転んでしまいました。そしてその時、腕に強い痛みがあり、力が入らず動かせなくなってしまいました。

私はたぶん大丈夫。大きなケガではないと思ったのですが、先生が心配をしてくれて、夕方５時過ぎに病院に行くことになり

ました。ホテルの近くに診てもらえる病院はなかったので、ホテルの専務さんが車を運転してくれて、ホテルから1時間半ほど離れた大きな病院まで連れて行ってくれました。

病院での検査の結果は、打撲で骨には異常がないということがわかり、私も先生方も安心しました。お医者さんは、私に「腕を固定しますか？」と聞きましたが、私は夜もみんなと楽しみたかったので、湿布を貼ってもらうだけで帰ることにしました。病院までの長い道程を連れて来ていただいたホテルの専務さんと先生には本当に感謝しています。

初めての温泉では顔を知っているだけで話したことのなかった他国の学生とも湯船につかりながら話をしました。とてもリラックスした中でのお喋りでお互い簡単に打ち解けることができました。

最初は恥ずかしくて入るのを躊躇していたタイの友達も、一緒に入ろうと誘いました。みんな気持ち良くて感激していました。

今回はケガをしてしまい、二日目はスキーができませんでしたが、次は二泊して、丸一日スキーを楽しみたいと思っています。

廖 珮棋（アキ）＜台湾＞

今回、ABKのスキー交流活動を通じて、深く理解したことがある。留学の目的は言語や文化を学ぶことだけではなく、人と人が心の底からコンタクトし合い、未知の領域からのチャレンジを受けることが更に重要だということだ。

私はスノボをやった経験があるので、友達から教えてくれと頼まれた。私はスパルタ式のスノボ教育をした。何回失敗しても「七転び八起き」の勇気で続けた結果、著しいが効果があり、皆はスノボが大好きになると同時に、自分の進歩を感じることが出来た。

喜びに包まれる中、夕暮れの序曲を迎える。温泉旅館で伝統的な懐石料理を味わったり、仲間同士でプライベートコンサートを行ったり、プロのアカペラグループの登場も印象深くて、耳から心に入る残響が響くほど感動せずにはいられなかった。

また最後には全員交流会で母国の教育や経済に関する観点を分かち合った。この機会に私がもっとも信じたことは、自ら選んだ道は、たとえ道中で躓くことがあっても、最後まで歩かなければならないということだ。

学校での先生の授業に限らず、「万冊の本

を読むより万里の路を行く」という中国の諺があるが、ABK がより多くの活動を行うよう心から希望する。それは、日本語に浸かっている重症のひきこもり達を勉強以外で、「見上 げてごらん、空の青色を！」となるだろう。

高 雅子 ＜オーストラリア＞

私にとって初めての雪山で、初めてのスノボだったのですが、友達が教えてくれました。彼女とリフトに乗って山の上まで行って、滑ろうという時、彼女は３つのことを言いました。

ボードのつけ方、止まり方、そして最後に滑りなさい！って。それで転がるように滑り始めました。最初は雪の中に倒れてばかりで難しかったけど、みんなで気軽に無理せず楽しみながら練習しましたから、とても楽しかったです。

夕方ホテルに帰ってからは温泉に入りましたが、それは私にとって初めての露天風呂体験でした。とても快適で、周りの雪景色が素晴らしかったです。それは日本ならではの特別な体験で、大好きになりました。

旅館の夕食は伝統的な日本料理でした。最初出された料理を見た時は、一つ一つのおかずが小さくて、みんな足りるのかなと思ったのですが、とても美味しくて、食べ終わってみたら大満足で、お腹もいっぱいになりました。

食事の後はプロのアカペラグループの歌を楽しみ、最後の討論会は「日本政府が外国人を受入れるのにあたってのアドバイス」というテーマでしたから、私たちは言葉の壁について話しました。

泊まった日本旅館の雰囲気は大好きです。畳の上に敷かれた布団に入って、みんなでいろいろな話をしていると。今まで以上にお互いが近い存在に感じました。

今回の旅行は土日でしたから、帰ってきた翌日は体が痛くて授業に出るのが大変でした。だから次回からは旅行から帰って２日は休みたいです。

今回の旅行では、新しい友達はもちろん、もっと日本の文化について学ぶことが出来ました。そして今までにない、体験ができました。

私の意見
私の体験

大切なのは夢を持ち続けること

クリスチアン ダヴィド ペニャ マルチネス（クリス）

（Cristian David Pena Martinez）～コロンビア

東京大学大学院医学系研究科（修士課程）

日本留学のきっかけは？

留学願望のなかった僕が日本に来ることになったのは、高3の時の友人の一言がきっかけでした。

海外留学志望で、いろいろな国の奨学金情報を集めていた彼は、たまたま彼の家に来ていた僕に「こんな奨学金が今日締切りになるよ」と言ったんです。それが日本政府の奨学金でした。

申し込みはウェブサイトに個人情報を入力するだけ。それなら僕も申込んで見ようと、本当に気軽な気持ちでした。

僕は高校を卒業後、コロンビア国立大学の医学部に入学していたのですが、ある日、日本大使館から電話があって「来週テストですが、クリスさんは来ますか？」と聞かれたんです。奨学生募集に応募したことはすっかり忘れていましたから、何の準備もしていなかったのですが、試験場に行ってみたら合格してしまったという感じです。

当時のコロンビアは内戦の影響で、大学でもデモやストが頻繁に行われていて、授業が行われない日も珍しくはありませんでした。「このままここにいていいのだろうか」という不安を感じていた時でしたから、日本に行くことに迷いはありませんでした。「日本でなら、しっかり研究ができるはずだ」と思いました。

コロンビア人が抱く日本は

コロンビアの若者が“日本”と聞いて思い浮かべるのは電気製品です。実際、最近は中国、韓国製のものが多いのかも知れませんが、その技術は日本由来、良い製品と言えばやはり日本製というイメージです。もちろん最近は日本のアニメやゲームに夢中の人もいます。

だから日本のイメージはとても良いのですが、日本に行くとなると言語の問題があります。街中で日本語学校は見かけませんし、僕は日本人を見たことさえなかったので、日本留学を具体的に想像することはできませんでした。

また、留学を志すほとんどのコロンビア人には、海外に行って視野を広げようとか、異国の文化を学ぼうという意識はないと思います。少しでもステータスの高い大学に行きたいという思いしかありませんから、大学ランキングを見て、上位校が並ぶアメリカに行こうとなるんです。

実際日本に来て日本語学校で

大学の学園祭で面白パフォーマンス

成人式にも参加しました

学んで見ると、日本語自体は4か月も学べば日常生活には困らなくなると思います。ところが、大学生活を送るとなるとまた違う次元の話です。しっかり予習をしないと授業にはついていけないので、1、2年生の時は事前に英語の教科書を使って勉強し、次に日本語の教科書を読んで内容を理解するようにしていました。だから1年生の時は大変でした。友達との勉強会でも「クリスはなんで遅いんだ？」と言われてしまいますが、それはどうしようもない。頑張るしかありませんでした。

ただ、1年生を乗り越えて2年生になると、どんどん楽になっていきました。それで履修する授業を次々と増やしていったんです。僕は理学部でしたが、心理学や教育学、経済学、工学部の授業もとっていました。友達には「なんでそんなにバカみたいに授業を取るんだ」と言われましたが、とにかく学ぶことが楽しかった。結局、4年間で、卒業に必要な単位の倍以上となる、約260単位をとりました。

もちろん、日本語の壁は完全には消えませんから、そこは少しでも乗り越え安くするために、初めての授業の時は、先生の所に行って自己紹介をすることにしていました。「私はコロンビアから来た留学生です。もし日本語が間違っていたら申し訳ないです」と。すると先生方は文法ではなくて、内容を見て評価してくれます。そうでないと「どうしてこんなに下手なレポートを提出するんだ！」ということになってしまいますから（笑）。

コロンビアと日本の大学

コロンビア人はいつも友達を作りたいと思っているので、教室に一人で座っていると、必ず誰かが隣に座って話しかけてきます。でも日本の大学ではそんなことはありませんね。最初に一人で座ると、最後までずっと独りぼっち。知り合いがいないと、誰も話しかけてくれません。そこは少し寂しいですね。

でもじゃあコロンビアではどんどん友達が増えるのかというと、そうでもありません。キャンパスで話かけてくる人の中には、たまにいい人がいますが、変な人、怪しい人もいっぱいいますから（笑）。

キャンパスの雰囲気も日本とは違います。コロンビアの場合は朝の6時から夜の10時まで授業があって、朝一番と夜最後の授業だけという人もいますから、いつも大勢の人がキャンパス内をウロウロしている。毎日イベント会場みたいに賑やかで

埼玉大学の卒業式で留学生仲間と

大学の仲間と自転車での日本一周に挑戦

す。部活もサークルもないけれど、フリーマーケットがあったり、バンドが演奏していたり、みんなキャンパスでいろんなことをしています。

それに比べると僕が通った埼玉大学は小さくて静かでした。僕は日本語学校から大学に入る時、いわゆる有名国立大学を希望したのですが、日本語の成績が足りずに叶いませんでした。でも今、東大で過ごしていて、学部を埼玉大で学べて良かったと思っています。埼玉大の理学部は小規模なので、先生と生徒が近い距離にあります。そしてみんなが「クリスはがんばっている」ということをわかってくれていて、先生に相談するのも簡単でした。そして結構やりたいことをやらせてもらえましたから、それは本当に良かったです。

東大では先生とアポを取るのも時間がかかりますし、冗談でも失礼なことをすると本気で怒られる（笑）。学内でイベントがたくさんあるのはいいのですが、逆にあり過ぎて参加したかったものを逃してしまう。

埼玉大学で少し残念だったのは、夢を諦めてしまっている学生が多いと感じたことです。僕は一緒に実験ができる人、大会などに共に参加したり、一緒に研究所を訪問したりできる人を探しましたが、情熱を持って勉強に取組んでいる人は少なかったように思います。みんな有名大学に行けなかったことで諦めてしまっているのか、それとも日本人がよく言うように、大学受験を頑張りすぎて燃え尽きてしまったのか。そこはわかりません。

その代わり意気投合した２人の友達とは、いつも共に行動し、様々なことにチャレンジしていましたから、今も強く繋がっています。

今の研究と目指すもの

僕は今、東大の研究室で自己免疫疾患に関わるメカニズムについて研究しています。そしてそれとは別に、治療のための制度作りや研究機関の設立などに関することにも興味をもって学んでいます。

南米では十分な治療を受けることなく亡くなっていく人が大勢います。街のあちこちで亡くなってしまう人、病院の待ち時間に亡くなってしまう人も珍しくありません。だからまずは一般治療の制度を確立しないといけない。その上で癌センターなど専門の医療施設や研究機関を作っていく必要があるんです。

東大の医学部では企業と大学の関係作りや、難病の定義

宇宙ロケット ボストーク１！（モスクワ）

宇宙飛行士の山崎直子氏と

について、国際的ガイドラインの国内への取り込み方、治験の進め方など…、様々なことを学べます。シンポジウムや講演会も数多く、積極的に参加しています。そうした中で修士号を取らないと卒業できませんから激務ですが、この環境には満足しています。

あえて不満を言うならば、それは「研究室の皆は博士まで行き、東大で研究員になって欲しい」という先生からのプレッシャーがあることです。そうした中で皆自分は本当は何がやりたいか、自分のキャリアをどうするかという考えを見失っているようにも思います。途中で研究室を辞めると、周りに迷惑をかけるという思いに陥ってしまっている人もいるようです。

特に東大で「アメリカの大学に行きます」というと、「どうしてだ？ 嘆かわしい！」と言われるケースが多いですね（笑）。埼玉大では「クリスには世界に出て活躍して欲しい」と言われていましたが、東大の先生にも「世界を見て帰って来い！」といったオープンな視野を持ってもらいたいなあと思います。

日本での成長

僕は日本に留学できたことに心から感謝しています。日本人を見たのはもちろん、他の言語を聞いたのも、英語で外国人と話したのも、別の宗教を持つ人を見たのも、全て初めての体験は日本でした。日本は学問はもちろん、様々な経験を僕に与えてくれました。

例えば驚いたことの一つにバイト文化があります。コロンビアでは、仕事をするのは大人か学校に行けなかった人で、“学生のアルバイト”という概念はありません。日本人は学校に行きながら仕事を経験し、労働の現場で倫理的なことやチームワークを学んで行く。そういう光景を目の当たりにして、本当にびっくりしました。

また、西洋文化のもとに育った人たちには、一番上に行かなければ意味がないと考える人が多く、特にコロンビア人はそういう傾向が強いように思います。そのため独立心も強く皆身勝手になりがちです。

もちろんトップを目指すのは悪いことではありません。でも日本で学んだのは、普通でもいいんだということです。会社に入ってしっかり自分の責任を果たせれば、それも一つの成功だということ。そしてみんなで一緒にがんばれば、一人よりもっと長く、遠い先まで到達できるかもしれないということです。

ノーベル物理学賞受賞の梶田隆章先生は同じ埼玉大学理学部、東京大学大学院の出身

ハロウィンパーティーで

常に周りの人のことも考える日本人のコミュニティー単位の考え方には、良い面も悪い面もあると思いますが、僕自身、日本に暮らしてだいぶ協調性のある人間に変わったと感じています。

日本はいろいろな分野で経験を持っています。ビジネス面では世界中で日本人が活躍し、文化的にも豊かなものを持っています。歴史的には失敗も経験しているけど、そこから学び世界に影響を与えていることも多い。そして教育レベルが高くて100％の人が基礎的な学問を学び、大勢の人が大学に行く。その結果、子供たちが様々な夢を持てる環境にあります。

そうした日本の当たり前は南米では普通のことではありません。コロンビアの場合、子どもたちの夢といえば、サッカー選手か有名なミュージシャンになることくらいです。それ以外、彼らはいろいろな将来を想像することが出来ない環境に生きています。

留学生へのアドバイス

留学生の中には、とにかく海外に出ることが目的だったという人もいますが、そうした中でもある程度、将来の夢や目的を持って留学したほうがいいと思います。そうでなければ忙しくなった時、乗り越えられないかもしれません。

その一方で、自分が思い描いたプラン通りには行かないこともありますから、プランＡがダメな時は、プランＢ、プランＣを考えておくことも大切です。

そして積極的に動くこと。アニメが好きで日本に留学したという人が、毎日部屋でアニメを見て過ごすのでは日本に来た意味がありません。せっかく日本に来たのだから、アニメの会社を訪問してみたり、アニメのサークルに入ってみたり、アニメに関わる何かを企画して発信してみたりする。今この時間を無駄にしないよう、いつか良い思い出になるよう、将来の夢を頭に置きながら、積極的に日本での生活を送ることを勧めます。

実は、僕の最大の夢は宇宙飛行士になることです。宇宙飛行士になれば国のスーパーヒーローですから、大統領にも直接意見が言えますよね。研究のことはもちろん、子供たちの教育にも影響を持てるかも知れません。そしてコロンビアにはサッカー選手だけではなくて、宇宙飛行士もいるんだよと言えるようになる。99.9％叶わないかもしれないけれど、夢は持ち続けていきたいと思っています。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ＆先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学（TNI）奮闘記

水谷光一

㉛ 進路　～学生が望む就職とは～

2018 年 11 月 12 日の TNI 2017 教育年度卒業式に学位記を受けた学士卒業生は 928 人に上り、開学以来最大の卒業生数となった。今回、TNI 学生の卒業後進路から TNI 学生の望む就職とは何かを覗いて見たい。（水谷光一 TNI 学長室専任講師）

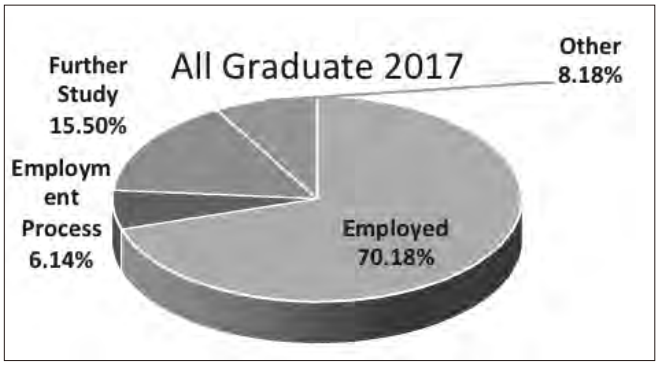
まず 928 人のうち、144 人が進学者である。進学先は TNI 大学院などタイ国内の大学、研究機関等が中心だが、日本の大学院（4 人）、専門学校（約 15 人）、ABK 学館を始めとした日本語学校（約 20 人）、その他欧米の大学に進学した者も十数名いる。

また、面接中など就職活動中の者が 57 人。そのほか連絡が取れない者、就職も進学も今のところ考えていないという者が 76 人（後述）、就職が決まっている者は 652 人だった。

今回は、この就職した 652 人について詳しく見てみることにする。なおこの調査は 4 年時の卒業試験が終わった直後（2017 年 3 月頃）から 2018 年 11 月の卒業式までの間に、アンケート型式で学生に解答してもらったものをまとめたものである。

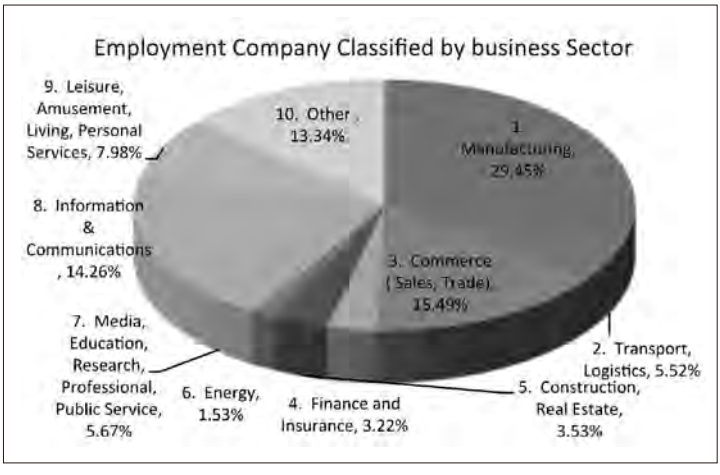
調査によると、就職先事業所数は 447 社で、企業だけではなく政府機関、学校なども含まれている。業種を見ると、製造業が約 30%、商業が 16 %、IT 関係が 15% である。TNI の学部構成が工学・情報（正確には情報技術）・経営の 3 学部であると考えると、これに沿った内容になっている。また昨年より HR（日本的人事管理）学科、AC（会計）学科から卒業生が出ているが、その結果がこの表から伺える。

主な進路



日系企業への就職率については、関係者よりよく質問を受けるが、正直、学生がアンケートに記入した社名からだけでは、日系企業かどうかを判断することが難しい場合も多い。そこで学生から回答を得た社名について、私たちで調べてみたところ、およそ 35% の学

就職先の業種



生が卒業後、研修も含めて日系企業へ就職した模様である。また、業務内容から主たる顧客を日系企業としている現地企業なども入れると、50％弱が日本と関わりのある企業に就職していると見られる（TNI 調査）。

残りの 50% だが、まだ仕事を始める前段階のアンケートであることもあり、どのような業務内容かよくわからないケースが多く、日本との関係も不明だ。

就職先の事業所名には、「Freelance」と記入した者（21 人）や就職先の事業所名を明らかにしない者（10 人）、そのほか個人事業主（31 人）も含まれており、従来の大学を卒業したら、まずは企業に就職するというイメージからは徐々に乖離する傾向にある。

また、連絡が取れない者、就職も進学も考えていない者についてだが、2018 年末までの追加電話調査によると「まだ就職・進学などを標榜しておらず、とりあえず家にいて進路を考えている」という回答が 55 件あった。

このような結果と他の学生からの聞き取り調査などから、学生の卒業後の進路については以下のような傾向が見える。

☆ *タイでの業務を経由せず、直接日本で就職する者が年々増えている。(2017 年卒生は 10 名程度だが、18 年は 17 名以上が卒業後在日本の企業に就職した)。タイで就職する場合も、業務・研修で「日本に行けるか・いけないか」が重要な就職先選択要因となっている。*

☆　*4 年生の最終試験は 2 ～ 3 月であるが、学生は卒業が確定しても、すぐ企業に入社して働き始めたいと希望するものは多くはなく、学位授与式のある 11 月までに目処が立てば良いと考えている。また、就職・大学院進学・フリーランスなど多様な進路を標榜している。*

☆　*重ねて強調するが、学生には進路について「こうあるべきだ」という考えはなく、自分にあった進路が見つかるまで柔軟に考える。たとえば面白そうだと思った企業に躊躇なく就職してみるが、自分のイメージに合わないとわかるとすぐに辞めてしまう可能性が高い。*

このような学生の就職に対する要望を受けて、採用する側の企業はどのように対応するべきか、次号以降で検証したい。

新星学寮建替え募金
2018 年 2 月 28 日現在　34,042,520 円

募金期間：2017 年 12 月～ 2019 年 3 月

＜ 2018/11/1 ～ 12/31 寄付者＞

小木曽建、加賀武

寄付者：計 206 名

（あ）秋庭一衛、厚見利子、新井かよ子、新井良文、安藤哲夫、安藤法夫　（い）家田文隆、池森亨介、石川清、市村幸男、伊藤順、伊藤源之、稲垣史、井上駿、今西淳子、岩井秀明、岩井秀生、岩尾明（う）上野長一、内田誠、宇戸清治　（え）江口義弘　（お）大木隆二、大越英男、大島京子、大杉立、大田原康彦・真澄、大野大平、大益牧雄、小川巌・サヨ子、小木曽建、小木曽友、奥山節子、小倉美恵子、小田中聡樹、小野澤史、小野ちず子、小野寺武雄　（か）加賀武、加瀬勝子、勝部純基、加藤福和 (Đinh Văn Phước)、金子新平、金田和子、鹿野快男・博子、川上剛、川口善行、川崎依邦　（き）菊地満寿美、城戸康通　（く）Nguyễn An Trung、Nguyễn đức Hòe、Nguyễn Ngọc Duyên、Nguyên Hồng Quân、Nguyễn Thái、Nguyễn Tiến Quang、Nguyễn Văn Ân/Đổ Văn Dũng、Quách Đình Huân、工藤博司、工藤 (萩野) 正司、工藤幹雄、久保哲也、熊沢敏一、倉内憲孝、栗原静子　（け）計宇生・孟令樺（こ）Ngô Diệu Kế、許鴻輝（Koh Hwee Hong)、河野真、高秉澤 / 姜英園、五島文雄、小林正治、小林孝信、小宮信介、小山芳江、是澤優、近藤恵子、近藤壮一、近藤昇　（さ）斉藤泰生、三枝辰男、榊正義・正子、笹村出、佐藤正文、佐藤亮一・説子　（し）重田誠一、清水国夫、清水勇治、徐世傑 (Chee Sze Keat)、尚撻 (Shang Jie)、白石勝己、代田泰彦、新宅光　（す）杉浦貴和子、杉浦正健、杉浦義昌、鈴木智、鈴木典之、須藤妙子　（せ）関川弘司、関谷操男　（た）Đào Hữu Dũng、田井良知、田井亮吉、ダオ・チ・ミン (Đào Thị Minh)/ ト・ブー・ルーン (Tô Bửu Lưỡng)、髙木紀子、高橋作太郎、高橋滋、高野靖子、竹治智、田中克江、檀良 (Đặng Lương Mô)　（つ）佃吉一、土屋元子、鶴尾能子、鶴園裕　（て）テイ・メン・フェイ (Tay Meng Fei)　（と）Dương Văn Quả、Trần Thanh Việt、Trương Văn Tân、Trần Văn Thọ/Tuyết Minh、Trần Việt Hùng、(一社) 東京華僑総会、外山経子、寅野滋　（な）中島明彦、中島純司、永井和子、永井ひろみ、中曽根信・不二、中野正明、中畠正喜、中原和夫、永山寿子　（に）西岡佐代子、西川恵、新田宜子　（の）野田春美、野本明裕　（は）萩原伊助、浜崎長寿、濱屋悦次、林均　（ひ）氷髙律子、平峯克、広江重徳　（ふ）Phạm Vũ Thịnh、Phan Văn Ngân、Vũ Mạnh Huỳnh、Vũ Tất Thắng/Vũ Thị Tuyết、Huỳnh Mùi、符祝慧、福壌二、福井弘之、福本一、藤原一枝、布施知子　（へ）ヘン・フ・チョン (Heng Fu Chong)　（ほ）穂積亮次、堀香奈美　（ま）Mai Văn Hào、馬杉栄一、松岡弘、松原許子、松本國男、眞山靜子、真弓忠　（み）水田誠、湊勝昭、三代沢史子　（む）村田進、村山富市　（も）本村博志、森尾正照　（や）安川隆子、柳瀬修三、山川民子、山口憲明、山田真美子、山田守一、山本章治　（よ）米田康三、米長泰、米満良暢　（り）Liên Hoa、劉錫江、林登居・ヒサ子　（れ）Lê Bá Phúc、Lê Ngọc Thảo、Lê Văn Hiền、Lê Văn Tâm、匿名希望 1 名　以上

イベント情報

■ 第5回 カンボジアフェスティバル（2019）

●日時　2019年5月3日（金・祝日）、4日（土・祝日）　10：00 － 19：00
●会場　東京都代々木公園イベント広場＋野外ステージ　入場無料
●主催　カンボジアフェスティバル 2019 実行委員会

■ 第 20 回 タイフェスティバル（2019）

●日時　2019年5月11日（土）、12日（日）
●会場　東京都代々木公園イベント広場＋野外ステージ　入場無料
●主催　タイ国政府大使館

■ 杉並区 Welcome Party

●内容　防災体験、おにぎり作り、交流ゲーム、防災グッズプレゼントなど
●日時　2019年5月18日（土）　10：30 － 15：00
●会場　杉並区立第一小学校（杉並区阿佐谷北 1 － 5 － 27 ／ JR 中央・総武線「阿佐ヶ谷」駅下車徒歩 2 分）
●定員　外国人 50 名　日本人 50 名　参加費 100 円（保険料）
●主催　杉並区国際交流協会　　ホームページ　http://www.suginami-kouryu.org/

■ 第 7 回『日中友好岸関子賞』論文募集

岸関子氏は「満洲国」の日本人官僚の妻として激動の歴史を生きぬき、自らの体験から正しい歴史認識を伝えていくことの大切さ、「日中友好」の重要性を痛感し、自ら実践しただけでなく、その志を若い世代が継いでくれることを願っていました。そこで（公財）日中友好会館ではその願いを実現するために、2013 年「日中友好関岸子賞」を設立、毎年一回、日本の大学あるいは研究機関で学ぶ中華人民共和国東北三省出身の留学生を対象に、彼らが日本で提出した修士論文の中から優秀なもの 1 点～3 点を選んで表彰し、奨励金最高 20 万円を授与しています。

● 応募資格：①中華人民共和国　東北三省（遼寧省・吉林省・黒竜江省）出身の留学生
② 2017 年度（2017 年 4 月～ 2018 年 3 月）、2018 年度（2018 年 4 月～ 2019 年 3 月）

の間に日本の大学院で、修士論文学位審査に合格していること。 ③人文・社会科学系を専攻し、日本語で書いた論文であること。

●提出する書類：（返却いたしません）：①修士論文コピー 2 部（大学院修了年月を明記） ②論文要約 1,500 字以内 ③指導教授の推薦状 ④パスポートコピー（東北三省出身がわかるページ）⑤在留カードコピー ⑥住所、E メールアドレス等の連絡先 ※②と③は任意の書式・A4

●選考スケジュール：第一次選考：2019 年 7 月頃 最終選考：2019 年 11 月頃 表彰式：2020 年 1 月頃（予定）

●募集期間：2019 年 3 月 1 日（金）～ 5 月 31 日（金）（当日消印有効）

●郵送先 / お問い合わせ：〒 112-0004 東京都文京区後楽 1-5-3 第 6 回『日中友好岸関子賞』選考委員会事務局 Tel：03-3814-1261 E メール：kourakuryo-k@jcfc.or.jp 担当：沼崎

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2018 年 12 月

賛助会員

（1 口）

田中 洋一	柏市

正会員

（2 口）

工藤 幹雄	文京区
榊 正義／ 正子	港区

（1 口）

酒井 杏郎	渋谷区
金野 隆光	柏市柏
香月 恵美子	川西市
田守 智恵子	札幌市
浜崎 長壽／和子	堺市
久保 亨	文京区
工藤 博司	酒田市
福 壤二	横須賀市
李 景 _	世田谷区
福井 道子	豊橋市
LIN 林 登居／ひさ子	八千代市
土屋 元子	千葉市
池田 俊二	横浜市
竹田 繁	南陽市
中島 明彦／絢子	横浜市
近藤 玲子	秩父市
岩井 秀明	川越市
金野 隆光	柏市
高柳 直正	北区
新田 宜子	西東京市
安藤 哲生	国分寺市
堀 香奈美	横浜市
中畠 正喜	川崎市
井上 駿	さいたま市
池野 朋彦／晶子	横浜市
古川 恵世	我孫子市
外山 経子	八王子市
清水 国夫	中郡大磯町
鈴木 秀明	豊橋市
石渡 荘介	足立区

ご寄附

金澤 公子	川口市
名女川 文比古	逗子
太田 京子	神戸市
萩野 さき子	富里市
山崎 光郎	横浜市
東京第一友の会	豊島区

2019 年 1 月

特別会員

（1 口）

張 瑞騰	台湾

正会員

松岡 弘	相模原市
松崎 松平	世田谷区
川口 善行	大田区
小原 正敏	土浦市
田川 明子	港区
高橋 雄造	杉並区
瀬尾 兼秀	北区
飯沼 信彦	揖斐郡大野町
（有）プルミエ -ACA	松戸市
大益 牧雄	京丹後市
池森 亨介	宇都宮市
大友 恭子	横浜市
真利子 知之	中野区
（株）デリー	文京区
北星学園大学国際交流センター	札幌市

ご寄附

NPO 法人 アジアの新しい風	世田谷区

＊皆様の暖かい御支援に感謝申上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名　称：公益財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOSIATION
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長　白石勝己

設　立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目　的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

(1) 留学生宿舎の運営
(2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
(3) 留学生に対する情報提供支援
(4) アジア語学セミナー
(5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ＡＢＫ留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員　　1口　1万円
賛助会員　1口　5万円
特別会員　1口　10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間３千円（十税）でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

『アジアの友』発行回数変更のお知らせ

諸般の事情につき、2019 年度より本誌『アジアの友』は現在の年 6 回（隔月）発行から、年 4 回（季刊）の発行に変更させていただきます。定価は従来通り１部500円(税別）です。

発行回数の変更に伴い、ご迷惑をおかけすることになりますが、今後とも引き続きご高配賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、変更後の年間購読料等詳細につきましては、別途ご案内させていただきます。

建替えた新星学寮の入寮者が決りました

昨年、古くなった木造建ての新星学寮の建替えがおこなわれ、11 月 10 日（土）に内覧会が行われました。その後、12 月中旬から 1 月にかけ寮生の募集が行われ、1 月には面接を終え 14 名の学生の入寮が決まりました。学生の内訳は、日本 5（男 3・女 2）、中国 3（男 2・女 1）、韓国 3（男 2・女 1）、台湾 2（男 1・女 1）、タイ 1（男 1）です。入寮は 3 月 20 日から始まります。これでいよいよ 4 月から中断しておりました新星学寮も活動を再開いたします。新星学寮の伝統の自治による共同生活に期待を寄せる学生も多く、寮生活の中での新たな学びと思考を通し成長されることへの期待が寄せられます。

今後とも皆様のご支援、ご協力等よろしくお願いいたします。

元寮生をはじめ新星学寮建替え募金にご協力いただきましたみなさまに、関係者一同改めて御礼申し上げます。

アジアの友　2019 年 2 - 3 月号

2019 年 3 月 20 日発行（通刊第537号）
年間購読（送料共）3,000円＋税　1部 500円＋税

発 行 人　白 石 勝 己
編　　集　アジアの友編集部
発 行 所　公益財団法人　アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2 － 12 － 13（〒113-8642）
電話番号 ： 03 - 3946 - 4121　ファクシミリ： 03 - 3946 - 7599
振替口座 ： 00150 - 0 - 56754　E-mail：tomo@abk.or.jp
ホームページ：（http://www.abk.or.jp/）

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)
2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
☎+81-3-3946-4121 FAX+81-3-3946-7599
Email : tomo@abk.or.jp
Home Page : http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

学校法人 ABK 学館

ABK学館日本語学校

所 在 地　〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12
電話番号　+81-3-6912-0756　　FAX　+81-3-6912-0757
U R L　http://abk.ac.jp　　E-mail　info@abk.ac.jp

- 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校（英語名称：ABK COLLGE）は1957年に設立された公益財団法人アジア学生文化協会で寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年４月に開校しました。当校には姉妹校のABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会）もあり各種協力を行います。

授業風景イメージ

寮の一例

ABK日本語コース　　ABK COLLEGE

ABK COLLEGE（学校法人ABK学館ABK学館日本語学校）
東京都認可日本語課程（大学院・専門学校・就職・文化体験等）

	4月入学 1年コース	10月入学 1年半コース	4月入学 2年コース
授業時間	960時間	1,290時間	1,720時間
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円		
授業料（施設・教材費含む）	620,000円	930,000円	1,240,000円

姉妹校　ABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会）
文部科学省指定大学進学準備教育課程

	4月入学 1年コース	10月入学 1.5年コース
授業時間	1,085時間	1,586時間
入学検定料	20,000円	
入学金	80,000円（大学進学日本語課程） 95,000円（大学進学準備課程）	
授業料（施設・教材費含む）	720,000円	1,080,000円

所在地：〒113-0042東京都文京区本駒込2-12-13
電　話：+81-3-3946-2171 FAX：+81-3-3946-7599
U R L：http://abk.or.jp
E-mail：nihongo@abk.or.jp